

利用適正化に係る利用者動向調査

「平成18年度知床国立公園利用者等動向調査業務報告書」（平成18年11月：専修大学
北海道短期大学教授 小林昭裕）の概要（文責：事務局）

1 調査手法等

利用者にアンケート用紙を配布し、郵送回収を行った。

(1) 調査日

7月16日～8月11日の間の合計10日

(2) 調査場所

カムイワッカ、知床五湖、羅臼湖、木下小屋（羅臼岳登山口）、相泊、羅臼VC

(3) 配布数・回収状況

配布数＝3,239枚 有効回収数＝681枚（21.0％）

カムイワッカ（26.9％）、知床五湖（19.9％）、羅臼湖（32.0％）、木下小屋（26.1％）、
相泊（35.7％）、羅臼VC（14.1％）

2 調査結果

(1) 個人属性

- ・性別：男性＝52.7％、女性＝47.3％
- ・年齢：20代以下＝12.0％、30代＝22.3％、40代＝20.9％
50代＝24.8％、60代以上＝18.9％
- ・住所：北海道＝29.0％、東北・関東＝36.4％、中部以西＝27.8％
- ・人数：単独＝13.2％、2人＝35.9％、5人以上＝18.1％
- ・職業：会社員＝35.3％、公務員＝7.1％、主婦＝18.3％
学生＝4.4％、無職＝10.2％、その他＝10.9％

(2) 来訪状況

- ・交通手段：レンタカー＝35.9％、自家用車＝28.5％、観光バス＝27.3％、
路線バス＝4.0％、オートバイ＝1.9％、自転車＝0.4％
- ・滞在期間：日帰り＝24.5％、1泊2日＝45.6％、2泊3日＝18.1％、
3泊4日＝5.6％、4泊以上＝3.0％、

(3) 利用者に対する情報提供

① 事前情報として知りたい情報

- ・現地の天候に関する情報＝70.0％

- ・見どころ情報＝57.0%
- ・利用規制に関する情報＝46.3%
- ・交通アクセスに関する情報＝39.9%

② 現地で知りたい情報

- ・当日の天気予報、現況＝62.7%
- ・当日の利用規制に関する情報＝42.9%
- ・当日のヒグマ出没状況＝41.3%
- ・当日の見どころ情報＝37.7%
- ・当日の五湖の混雑状況＝33.6%
- ・野生動植物の生息状況＝31.9%

(4) 知床への来訪目的

- ・自然（森、植物）に触れる
- ・気分転換を図る
- ・日常生活からの開放感を味わう
- ・自然（エゾシカなど動物）に出会う
- ・家族との交流を楽しむ

*来訪の目的は、知床らしい自然の中で非日常体験を味わうことが重視されている。

(5) 知床での利用形態

- ・知床五湖の遊歩道散策（76.6%）
- ・知床横断道路沿線と知床峠からの眺め（57.3%）
- ・植物の写真撮影、観察（52.7%）
- ・遊覧船からの断崖や山々の眺め（44.2%）
- ・野生動物との出会い（40.3%）

*カムイワッカでの入浴（14.0%）が、2005年（33.0%）に比べ減少傾向にあり、「自然センターの見学」、「フレペの滝への散策」、「ウトロからの夕焼けの眺め」、「エコツアーへの参加」、「植物の写真撮影、観察」が増加の傾向にある。

(6) 車両規制への対応

① 車両規制の認識

- ・規制を知らなかった＝38.5%（現地に来るまで規制を知らなかったので考慮できなかった。）
- ・規制を知っていた＝61.5%（規制を知っていたが、考慮せずに来た＝35.9%）
（規制を知っていたので、規制期間との関係を考慮したものの、この時期しかなかった＝25.6%）

② 再訪した場合、車両規制への対応

- ・規制されていても訪れる＝73.6%
- ・できるだけ規制機関をはずして訪れる＝13.2%
- ・規制されていたなら訪れない＝3.0%

③ 車両規制への理解

- ・必要であり、理解する＝73.1%
- ・ある程度の規制はやむを得ない＝24.9%

*積極的・消極的理解が98%で、大多数の利用者は車両規制に理解を示している。

④ 自然センター以奥の車両規制導入案に対する意見

- ・現状でよい＝39.0%
- ・カムイワッカ方面への規制と同様に実施した方がよい＝29.3%
- ・自然解説や利用マナーガイド付きの観光バスと
路線バスは規制対象から除く＝18.0%
- ・すべての観光バスと路線バスは規制対象から除く＝3.8%

*何らかの形での車両規制の賛同は51.0%を占めた。

(7) 知床の自然環境や利用体験を守る上で重要と思われる活動

(重要な項目)

- ・計画の公開と市民参加＝22.5%
- ・公園管理への支援活動＝11.2%
- ・調査研究活動と公表＝10.1%

(改善・強化すべき項目)

- ・公園管理への支援活動＝27.3%
- ・調査研究活動と公表＝27.0%
- ・計画の公開と市民参加＝26.4%

(8) 知床五湖の利用について

① 知床五湖で大切なもの

- ・手つかずの自然＝70.0%
- ・ゴミのない環境＝65.9%
- ・喧噪のない静けさ＝51.8%
- ・五湖から連山の眺め＝47.3%
- ・安全に周遊できること＝43.3%
- ・自然環境ガイドの存在＝36.6%

*人為を排除した景観や野生動物といった自然環境特性や静寂性だけでなく、安全性やガイドといった人と自然環境の関係性も大切なものとされている。

② 知床五湖で利用者が気になった点、不満な点

- ・人混み、混雑＝49.3%
- ・歩道脇の植物の踏み付け＝30.0%
- ・トイレの汚れ、不足＝29.8%
- ・歩きにくさ＝17.8%
- ・駐車場の時間待ち＝11.0%

③ 五湖周辺の環境整備を進める際に重要視すべき対象

- ・森と湖からなる静寂な雰囲気＝92.5%
- ・自然環境への影響を最小化した施設整備、管理＝84.9%
- ・自然景観への影響を最小化した施設整備、管理＝83.0%
- ・五湖から知床連山への眺望＝79.4%
- ・ヒグマとの軋轢を回避する技術者の確保＝63.2%
- ・五湖の散策路が閉鎖されない状況＝44.3%
- ・ヒグマとの危険を回避する高架木道の整備＝39.1%

(9) 知床での環境整備の方向性（区域別にみた望ましい状況）

A～Gそれぞれの区域で、望ましい、あるいは、ふさわしい状況の選択

A=知床岬徒歩、B=知床連山、C=羅臼湖、D=フレペの滝、E=カムイワッカ

F=知床五湖、G=知床峠

① 人為的改変との遭遇

- ・なし：区域別にあまり相違がない（6.2～11.2%）
A > B > G > E > D > F > C
- ・踏跡程度：区域別にやや相違がある（7.3～18.9%）
E > F > B > D > A > C > G
- ・歩道、野営地：区域別にやや相違がある（5.9～18.8%）
F > D > B > C > E > G > A
- ・木製の構造物：区域別にやや相違がある（1.6～14.6%）
F > G > D > E > C > A > B
- ・道路や人工構造物：区域別にやや相違がある（0.3～15.3%）
G > F > E > D > C > A > B
- ・構造物に加え森林伐採跡も：どの区域でも少ない（0.2～1.0%）

*人為的改変・痕跡が少ないことが好ましい区域順は以下ようになった。

知床岬徒歩－知床連山－羅臼湖－フレペの滝－カムイワッカ－知床五湖－知床峠

② 乗り物の騒音との遭遇

- ・いつも：知床峠（5.1%）以外の地区は極めては少ない（0.1%～2.0%）

- ・頻繁に：知床峠（15.1%）以外の地区は極めては少ない（0.0%～5.6%）
- ・ときどき：知床峠（11.9%）以外の地区は少ない（1.1%～7.8%）
- ・たまに：どの地区も少ない（2.1%～10.1%）
- ・めったに：知床五湖（18.5%）、カムイワッカ（11.5%）、フレペの滝（10.7%）以外の地区は少ない（7.1～7.7%）
- ・なし：「知床五湖」（27.6%）が多く、「知床峠」（10.1%）が最も少ない。
他の区域は（16.0～21.2%）

*乗物の騒音との遭遇に対する「望ましさ＝騒音が少ないこと」を望む地区順は以下
のようになった。

知床峠徒歩－知床連山－羅臼湖－フレペの滝－カムイワッカ－知床五湖－知床峠

③ 他の利用者との遭遇

- ・201人以上：知床五湖（10.4%）以外の地区は極めては少ない（0.0～4.6%）。
- ・101～200人：知床五湖（10.1%）、知床峠（6.1%）以外の地区は極めて少ない（0.0～0.7%）。
- ・51～100人：地区別にやや相違が大きい。
知床五湖（22.9%）、知床峠（14.1%）、カムイワッカ（9.4%）、
知床峠徒歩、知床連山、羅臼湖、フレペの滝は極めて少ない（0.6～4.7%）
- ・26～50人：地区別にやや相違が大きい。
知床五湖（19.8%）、知床峠（15.9%）、カムイワッカ（12.9%）、
フレペの滝（9.3%）、知床峠徒歩（5.3%）、知床連山、羅臼湖は極めて少ない（4.0～4.6%）
- ・11～25人：地区別の相違はあまりない（6.9～14.4%）が、「知床峠徒歩」（4.6%）、
知床連山（6.9%）がやや少ない。
- ・0～10人：地区別の相違はあまりない（3.9～14.7%）が、カムイワッカ、
知床五湖、知床峠がやや少ない（3.8～7.2%）

*他の利用者との遭遇に対する「望ましさ＝人との出会いが少ないこと」を望む地区
順は以下のようにになった。

知床峠徒歩－知床連山－羅臼湖－フレペの滝－カムイワッカ－知床峠－知床五湖

④ 利用規制や利用ルール of 強度

- ・全くの自由利用：知床峠（7.8%）以外の地区は極めては少ない（1.2～3.0%）
- ・ほぼ自由利用：地区別にやや相違が見られる。
知床峠（10.3%）、知床五湖（16.5%）で多く、知床峠徒歩、
知床連山、羅臼湖は極めて少ない（3.1～4.0%）
- ・決まりごとがある：地区別にかなり相違が大きい。
知床五湖（29.4%）で最も多く、知床峠徒歩、知床連山、

羅臼湖が少なく（7.5～8.1％）、フレペの滝、カムイワツカ、知床峠は（12.8～15.1％）

- ・決まりごとが多い：知床五湖（5.6％）、他の地区は極めて少ない（1.3～4.0％）
- ・加えて、利用規制がなされる：知床五湖（13.7％）、他の地区はほとんど差がない（5.3％～9.7％）
- ・さらに、違反に対し罰則を伴う：地区別の差はほとんどない（6.9～11.0％）

*利用規制や利用ルールの強度に対する「望ましさ＝強い規制」を望む地区順は以下のようになった。

知床峠徒歩－知床連山－羅臼湖－カムイワツカ－フレペの滝－知床五湖－知床峠

⑤ 自己規制の度合い

- ・ 0％：どの地区も極めて少ない（0.0％～0.7％）
- ・ 10％：どの地区も極めて少ない（0.2％～1.3％）
- ・ 25％：どの地区も極めて少ない（0.6％～2.1％）。
- ・ 50％：知床五湖（12.9％）、知床峠（10.1％）以外の地区は少ない（3.5～7.6％）
- ・ 75％：知床五湖（12.9％）以外の地区は少ない（5.3～9.7％）
- ・ 100％：地区別にやや相違が見られる（29.7～43.5％）
知床五湖（43.5％）が多く、羅臼湖（29.7％）が少ない


*自己責任の度合いに対する「望ましさ＝強い度合い」を望む地区順は以下のようになった。

知床峠徒歩－知床連山－羅臼湖－フレペの滝－カムイワツカ－知床五湖－知床峠

(10) 評価順に基づく各地区の区分・位置付け（提案）

上記の(9)①～⑤の評価順に基づき、各利用地区の区分と位置づけは、以下のように提案される。

自然環境の原始性が高く、他者との遭遇が少なく、
利用規制が厳しく、自己責任の度合いが高い地区

- 
- ① 知床峠徒歩、知床連山
 - ② 羅臼湖
 - ③ フレペの滝
 - ④ カムイワツカ
 - ⑤ 知床五湖
 - ⑥ 知床峠

自然環境の原始性が低く、他者との遭遇が多く、
利用規制がゆるく、自己責任の度合いが低い地区